

先週と今週（5月2日から5月13日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

先週および今週のインターバンク市場は、積みの着地を意識した取引が見られ、調達側が若干増加した。当座預金残高が概ね280兆円台前半と高水準で推移する中、先週の無担保コールO/N物は、▲0.07～▲0.06%の出合いが中心となり、無担保コールO/N加重平均レートは両日とも▲0.06%台後半となった。

今週に入ると税・保険料揚げの影響や積みの着地に向けた調整等により、無担保コール市場残高は、マイナス金利が適用された2月16日以降初めて5兆円台を回復した。レート水準は▲0.07～▲0.06%の出合いが中心となり、週後半にかけては▲0.04%近辺での出合いも見られた。取り手が増加したことを反映し、無担保コールO/N加重平均レートは週後半にかけて上昇した。ターム物は、ショートターム物で▲0.06～▲0.055%の出合いが散見される程度であった。

固定金利方式の共通担保資金供給オペは、2日と12日に2W・8,000億円がオファーされた。2日オファー分は、落札額2,880億円(期落ち額3,230億円)、12日オファー分は落札額2,830億円(期落ち額1,780億円)と全て札割れとなった。

●レポ市場

O/N GCは2日から10日までは▲0.09～▲0.08%での取引が中心となった。短国発行が重なる10日のS/N以降は▲0.08～▲0.04%と、レート水準を切り上げての取引となった。

連休半ばの2日から連休明けの10日のS/Nまでは、業者の売物は多くなかったものの、積みの前半に資金調達を抑えていた一部投資家の資金調達意欲の高まりから、▲0.09～▲0.08%近辺での出合いが中心となり、日銀オペ後の業者の売物枯渇による極端なレートの低下などは見られなかった。10日以降はTDB連続発行の影響で業者の売物が増加し、11日のS/N（13-16）は▲0.08～▲0.06%での出合い。12日のT/N（13-16）は▲0.06～▲0.05%での出合いと水準を切り上げた。新積み期の取引となる5/16-17の取引は、短国発行の影響で業者の売物が多く、投資家の資金調達も見られたことで▲0.06～▲0.04%の出合いとなった。週末13日のS/N(17-18)は短国買入オペが3兆円オファーされたことで業者の売物が軽くなったと見られ、▲0.075～▲0.065%での出合いとなった。

SCは個別銘柄では5y125～127、10y336～342、30y48～50、40y7～8などのカレント銘柄近辺にビッドが多くみられた。

●短国市場

先週の短国市場は大型連休の谷間にあたり、1Y物で▲0.296%の出合いが見られた程度と閑散なマーケットであった。2日には短国買入オペが前回比5,000億円増額の20,000億円がオファーされた。応募限度額がオファー額の4分の1で据え置かれる中、前回対象外だった603回債（3M物）が対象銘柄となった。オファー額が多めであったことや、マーケットの需給が良好なことから、平均利回較差+0.012%、按分利回較差▲0.009%と落ち着いた結果となった。

今週の短国市場は大型連休明けとなり、3本の入札を消化しながらレート目線を探る展開となった。5月は資金不足月であることから、短国買入オペのオファー額が比較的多めの予想となっていることが入札の堅調な結果を後押しした。オペ見合いの買いや海外勢の買いが中心となっていることもあり、この水準での買い手は乏しく、入札後のセカンダリーマーケットでの出合いは少額にとどまった。

10日は3M物の入札が実施された。WI取引で出合いが見られない中、平均落札利回▲0.2375%、按分落札利回▲0.2197%と前回債に次ぐ強めの結果となった。セカンダリーは▲0.24%が出合った程度と小動きだった。11日は6M物の入札が実施された。WI取引で▲0.275%の出合いが見られる中、平均落札利回▲0.2939%、按分落札利回▲0.2819%と事前予想よりも強い結果となった。セカンダリーは▲0.4%の出合いが見られた程度と、こちらも小動きに終わった。12日は3M物の入札が実施された。WI取引で▲0.225%の出合いが見られる中、平均落札利回▲0.2313%、按分落札利回▲0.2204%と概ね10日の3M入札と並ぶ強めの結果となった。セカンダリーは▲0.25～▲0.245%の出合いが見られた程度と小動きだった。また、この日の引け際には翌日のオペを睨んでか、6M物で▲0.356%から▲0.425%まで買い進まれる動きが見られた。

13日は短国買入オペが前回比10,000億円増額の30,000億円と概ね予想通りの金額でオファーされた。今回は1社あたりの応募限度額が2分の1へ変更された。引け値が低い銘柄を中心に応募されたためか、平均利回較差+0.034%、按分利回較差+0.023%となった。

●CP市場

先週のCP市場は大型連休の谷間にあたり、週間償還総額2,900億円程度に対し、ノンバンク業態からの大型発行案件が目立った程度で、週間発行総額は1,000億円弱にとどまるなど、発行市場は閑散だった。発行レートは市場残高が14兆円台に回復していることや、参加者が限定的であったことも影響してか、若干ながら切り上がる動きが複数銘柄で見られた。

今週のCP市場は大型連休明けとなったものの、発行市場はさほど盛り上がりなかった。週間償還総額5,300億円程度に対し、鉄鋼、石油、不動産等の業態から大型発行案件が見られたものの、週を通して発行件数が少なく、発行総額は3,800億円程度と償還超のマーケットとなった。発行レートは0%付近での投資家の購入意欲は下がっているものの、引き続きディーラーによる0%以上での買いが厚く、a-1格相当銘柄はほぼ0%近辺の決着となった。

10日はCP等買入オペが前回比1,000億円減額の3,000億円がオファーされた。結果は平均・按分落札利回共に▲0.002%となった。応札可能銘柄が増えていることや、投資家のマイナスレートでの購入が限定的であることから、応札額が増加し、前回の平均▲0.01%、按分▲0.007%から大幅に上昇した。現状の発行レートが軒並み0%近辺であることを勘案すると限界的な落札レートと考えられる。

●短期金融市場関連指標

	日経平均（円）	新発10年物 国債利回り（%）	為替 (ドル/円中心相場)	無担保コールO/N (加重平均・%)	東京レポレート(翌日 物・T+1スタート・%)	日銀当座預金残高 (億円)
5/2（月）	16,147.38	△ 0.115	106.40	△ 0.067	△ 0.076	2,811,000
5/6（金）	16,106.72	△ 0.120	107.36	△ 0.066	△ 0.085	2,805,100
5/9（月）	16,216.03	△ 0.110	107.55	△ 0.066	△ 0.092	2,810,900
5/10（火）	16,565.19	△ 0.100	108.45	△ 0.068	△ 0.096	2,814,800
5/11（水）	16,579.01	△ 0.105	108.83	△ 0.065	△ 0.077	2,832,500
5/12（木）	16,646.34	△ 0.115	108.38	△ 0.063	△ 0.056	2,795,700
5/13（金）	16,412.21	△ 0.115	108.80	△ 0.055	△ 0.055	2,788,600

来週（5月16日から5月20日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
5/16 (月)	4月の企業物価指数(日銀 8:50) 3月の石油等消費動態統計(経済産業省 13:30)				
5/17 (火)	3月のマネタリーサーベイ(日銀 8:50)	5Y 24,000億円 5/19発行	国有林野借入 552億円 5/25借入		4月の米消費者物価指数 4月の米住宅着工件数 4月の米鉱工業生産・設備稼働率 4月の英消費者物価指数
5/18 (水)	1-3月期のGDP 1次速報(内閣府 8:50)	TB1Y 25,000億円 5/20発行			4月のユーロ圏消費者物価指数改定値
5/19 (木)	3月の機械受注統計(内閣府 8:50)	TB3M 44,000億円 5/23発行	20Y 11,000億円 5/23発行	交付税借入 10,500億円 5/27借入	
5/20 (金)					4月の米中古住宅販売

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
5/16 (月)	1,900	▲ 17,800	▲ 15,900	全店共通 CP買入 ETF買入	▲ 1,800 ▲ 1,200	2,800 300	100	▲ 15,800	TB3M発行▲44000償還43600 2Y発行▲23000償還15900 30Y発行▲8000 個人向け3Y・5Y・10Y▲2700 個人向け3Y償還200
5/17 (火)	0	2,000	2,000	国債買入 短国買入		8,500 30,000	38,500	40,500	交付税借入▲10500期日10500
5/18 (水)	0	1,000	1,000				0	1,000	
5/19 (木)	▲ 2,000	▲ 24,000	▲ 26,000				0	▲ 26,000	5Y発行▲24000
5/20 (金)	▲ 2,000	▲ 18,000	▲ 20,000				0	▲ 20,000	TB1Y発行▲25000償還7700 エネルギー対策借入▲6000期日5000
週間合計	▲ 2,100	▲ 56,800	▲ 58,900	—	▲ 3,000	41,600	38,600	▲ 20,300	

5/16は日銀予想、5/17以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、16、19、20日が国債の発行日となり、それぞれ資金不足日となることが見込まれる。また、新しい積み期間に入ることにより取り手が様子見姿勢となることが予想される。

短国市場は、18日に1Y物、19日に3M物の入札が実施予定となっている。引き続き1Y物は短国買入オペでの売却を睨んだ積極的な応札が想定され、強めの結果が予想される。

CP市場は18日にCP等買入オペが3,500億円で実施される予定となっている。銘柄如何ではあるものの、オペレートが実質的な上限に達している中、下がる要因も特段無く、レートが大きく変化することは考え辛い。

主要なイベントとしては、18日に1-3月期のGDP1次速報値が予定されている。

◆本資料は信頼できるとされる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。
◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目論見書をよくお読みください。

セントラル短資株式会社 登録金融機関関東財務局長（登金）第526号 日本証券業協会加入